

Cente Technical Information

発行番号	001-0001	Rev	第1版	発行日	2009/02/13
題名	ARPキープアライブ機能の機能障害について				
情報分類	障害情報				
適用製品	<ul style="list-style-type: none">・Cente TCP/IPv4 Ver.1.20 - Ver.1.30・Cente TCP/IPv4 SNMPv2 Ver.2.00 - Ver.2.10・Cente TCP/IPv4 SNMPv3 Ver.2.00 - Ver.2.10・Cente IPv6 Ver.1.20 - Ver.1.40・Cente IPv6 SNMPv2 Ver.2.00 - Ver.2.10・Cente IPv6 SNMPv3 Ver.2.00 - Ver.2.10 ※ARPキープアライブを機能追加したバージョンが対象となります。				
関連資料	なし				
【詳細】 <p>Centeミドルウェアでは、ARPキャッシュエントリがタイムアウトによって削除されないよう、定期的にARP Requestを送信する機能を持っています。(ARPキープアライブ機能)</p> <p>Centeミドルウェアでは、ARPキャッシュエントリは以下のいずれかで作成されます。 (A) 相手からARP Requestを受信したとき (B) 自分からARP Requestを送信し、相手からARP Replyを受信したとき 上記(A)で作成されたARPキャッシュエントリのため、ARPキープアライブ機能によって送信されるARP Requestパケット内容が以下のようになります。</p> <p>ARP sender MAC ... Cente搭載機器のもの ARP sender IP ... 0.0.0.0 ARP target MAC ... 00:00:00:00:00:00 ARP target IP ... ターゲット機器のもの</p> <p>ここで、ARP sender IPがCente搭載機器のIPアドレスになっていないため、これを受信した機器が正しくARP Replyを返さないなど、他の機器の誤動作を誘発する恐れがあります。なお、上記(B)で作成されたARPキャッシュエントリでは、ARP sender IPは正しくCente搭載機器のIPアドレスになります。</p> 【回避方法】 <p>以下のいずれかの方法で回避してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ARPキープアライブ機能をオフにする。 (詳細については、Cente TCP/IPv4ユーザズマニュアルを参照してください。)・送信するARP RequestのARP sender IPが、Cente搭載機器のIPアドレスになるようソースコードを修正する。 (改変箇所については、別途お問い合わせください。) <p>上記ARP Requestによって、お使いの環境に何らかの障害が発生している場合には、上記の回避方法をご検討ください。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					